

make.fUKUI WONDERS

XSTUDIO パートナー企業座談会 XSTUDIOに見る、 福井のまちの可能性

村上貴宣

明林繊維株式会社 代表取締役社長



山本和紀

ジャパンポリマーク株式会社 営業部 課長代理



荒川拓磨・荒川道子

荒川レース工業株式会社



左より村上氏、山本氏、荒川(道)氏、荒川(拓)氏

2年間続いたXSCHOOLの枠組みを再編し、新たに始動したXSTUDIO。福井の基幹産業である繊維をテーマに、パートナー企業を含めた3つのスタジオが主体となり、福井の文化や風土を紐解き、社会の動きを深く洞察し、新たな事業・プロジェクトを生み出してきました。去る1月27日には東京ミッドタウン日比谷、2月9日は福井・NICCAイノベーションセンターで、今年度の成果発表会を開催。両会場で500名を超える来場者に恵まれ、大盛況のうちに、今後の活動へのスタートを切りました。プレゼンテーションを終えて、XSTUDIOに参加した明林繊維株式会社・村上貴宣氏、ジャパンポリマーク株式会社・山本和紀氏、荒川レース工業株式会社・荒川拓磨氏、荒川道子氏に、約120日間をふりかえり、そこから見た「福井の可能性」についてお話をいただきました。

——今年度はパートナー企業のみならずスタジオメンバーの一員として、ともにプロジェクトをつくりあげていきました。ふりかえてみて、いかがでしたか？

山本：さまざまな専門性や豊かなアイデアをもつメンバーとご一緒でき、刺激になりました。スタジオBでは、リーダーの萩原さんが、弊社の熱転写ラベル技術を「さまざまな人・もの・ことをくっつける技術」と翻訳してくれ、新たな可能性の広がりを感じました。また、スタジオごとにアプローチも異なり、それぞれの特色が出ましたね。

村上：そうですね。僕らが参加したスタジオAは、杉本リーダーが引っ張ってくれて。最初は戸惑いもありましたが、それぞれの相性やチームワーク、多様な専門性が作用し、よいチームができました。弊社からの参加は、僕を含めて3名。社員は「世の中には、こんな人がいるのか！」と世界が広がったと感想をくれたり、ここで出会った同世代のメンバーとプライベートでも遊びに行くほどの仲になっていたり、とても嬉しかったですね。

山本：同感です。弊社は、若手の研究者と営業、私と、3名での参加でしたが、年齢もバックグラウンドも異なるメンバーとの出会いで、会社では見ることができない一面も引き出されましたね。

荒川(拓)：ジャパンポリマークの研究者・吉川くんは、サックスの演奏を披露するなど大活躍でした(笑)！ スタジオCでは、手を動かしながら「よさ」について探求することからスタートしました。はじめの1ヶ月半は、ゴールも定まず、素直にレースのよさを探求する期間でしたね。

荒川(道)：同時にパートナー企業としては焦りもあり、これをどう収束させたいんだろうって(笑)。でも途中、一度パートナー企業ということのを忘れてみようと思えるようになってからは、もう全速力でしたね。

荒川(拓)：僕自身は当初、メンバーをバックアップすることが自分の役割だと思い込んでいて。でも終盤、「で、荒川レースさん、最終的にはどうしたいの？」って、メンバーから問いかけられて……、そこでハッとしました。

村上：僕もメンバーが活躍できる環境を整えることが、自分の仕事だと思って動いていました。でも、そう思えたのも、みんなの熱量のおかげ。毎月、自腹で東京や大阪から福井に通って来て、これはすごいことです。



山本：そうですね。うちの社長も、お声がけいただいた当初は、「なんで参加者は自腹を切ってまで福井に来るの？」と言ってましたね。もちろん経験的な投資など目的はあると思うけど、僕もあまり合理的には思えなかった。でも今は、なかなか言葉にできない、強い意思を感じています。

村上：もともと僕は効率主義で、非効率で利益にならない試みには難色を示す人間で。だから、これまでだったら、スタジオに通う人たちの気持ちなんて少しも理解できなかったと思います。でも今は、新たな実験や挑戦が楽しくて。120日間が一番変わったのは、僕かもしれません。

山本：富山への繊維リサーチも楽しそうでしたね。

村上：そうですね、富山のワイナリー見学は印象的でした。それまでリーダーが「生地は、ワインと似ている！」と話していたんだけど、僕自身はまったく理解ができなくて(笑)。

山本：現場に足を運ぶと、仕入れの悩みや働き手の少なさなど課題も近く、テロワールを伝えるアピール方法など、たくさんヒントをいただきました。

——最終プレゼンテーションにも、たくさんの方々が来られていましたね。

山本：実験的な取り組みができたことで、いろいろな反響をいただきました。個人的には、東京プレゼンでゲストレビュアーの編集者・若林恵さんによる「福井がなくなっても、俺には(=福井に縁のない人にとっては)関係ない」というコメントが衝撃的でした。でも、この一言で、自分のなかでのモヤモヤが解放されたような気がして。

村上：かなりインパクトのある発言でしたよ。

山本：そうですね(笑)。でも「福井」の部分他地域や企業などに置き換えると、胸に落ちるなど、「福井を元気にしたい！」という気持ちは大切だけど、それは結果なんです

山本：ね。伝え方やプレゼンテーションの重要性について考える機会にもなりました。

荒川(道)：福井プレゼンでは、荒川レース工業は私の実家であること、もともとは父の代で廃業予定だったこと、3年前の結婚を機に、主人が継いでくれることになりUターンしたことも話しました。

荒川(拓)：僕は出身が愛知県で、前職も銀行員で。性別以外、すべて変えました(笑)。

荒川(道)：そしたら、同じ境遇のご夫婦が聞いてくれたように、会場で声をかけてくれたんです。ちょうど、3年前に勝山へUターンして、奥様のご実家の織物工場を継いだそうで。規模もうちと同じくらいで。「私たちもやってみよう！」と話してくださり、嬉しかったですね。

村上：あ、うちのお取引先ですね！ いいですね、そういうネットワークが、業界を活性化させるのだと思います。

荒川(道)：XSTUDIOを通して、レースはもちろんですが、繊維の素晴らしさ、純粋に楽しみながら「よさ」を見出すことの面白さが実感できました。また、なにより「これからレース屋さんとして、やっていくんだ」と覚悟ができたことは、私たちにとっても大きな成果だと思います。

山本：なるほど。そういう意味では、荒川さんたちにとって、今、必要な貴重な時間をここで過ごせたんですね。



——福井のまちへの目線は変わりましたか？

荒川(道)：私は10年ぶりに福井に戻りました。でも、今回参加していなかったら、Uターンした人がこんなにたくさんいること、福井で芽生えはじめた新たな魅力にも気づけないうま過ぎるのかも。いろいろな出会いを通して、まちのあり様を感じることができました。

村上：そうですね。やはり福井に住んでいると、どうしても地元のよさを感じられるのかもわからないですね。僕は、福井がここまでものづくりの盛んなまちだとは知らなかったし。XSTUDIOは、福井のよさに、改めて気づかせてくれる取り組みでもあったのかなと思います。

荒川(道)：そうですね。メンバーからいただいた影響が大きくて、感謝もしきれない、そんな気持ちです。

荒川(拓)：今後はここで培った経験を、どう地域に根づかせるかが重要ですね。メンバーとともに立ち上げたARAKAWA LACE LAB.の活動を5年後、10年後も継続し、デザイナーや商社、さまざまなつくり手と協働し、人と人をつなぐハブ的な役割を担いながら、福井と他都市との行き来を生みだしていけたらと思います。

村上：僕は、まず会社のなかに、やりたいことをやってもいい風土をつくりたいですね。「経理担当だけ、私も生地を売ってみたい！」とか、新しい挑戦を口にするような雰囲気にした。そうすることで、社員も会社もいきいきするだろうし、それぞれのまちへのまなざしも変わってくるのではないかと思います。

山本：ここで生まれた可能性を育てていくためには、行政や大学、企業、また一人ひとりが「いろんな人たちが挑戦することや投資すること」に対して寛容であることが、重要だと思います。なにより、福井のまちにはその素地があるんだと感じました。そのためにも僕たちの世代が率先して、しっかり考え、行動していきたいですね！

【聞き手：文 多田智美(MUESUM) / 収録日：2019.1.28 @東京ミッドタウン日比谷、2.10 @明林繊維株式会社】

明林繊維株式会社 www.meirin-seni.co.jp

北陸産地を軸に再生セルロース繊維(レーヨン、アセテート、キュブラ)を中心とした繊維メーカーとして事業を展開。工程の最初から最後までを国内生産にこだわり、商品企画から原糸の仕入れ、燃糸、製織、染色加工までをまも上げる産元商社として、常時60社以上と提携しながら独自のテキスタイルを送り出している。

ジャパンポリマーク株式会社 www.poly-mark.co.jp

接着技術を用いた「熱転写ラベル」における国内トップメーカー。主力の衣料分野では、サッカー日本代表ユニフォームなどのスポーツウェアから、あらゆるブランドのロゴマークに採用されているほか、産業分野では自動車用資材などデザインに加え機能性を与える素材としても用途が拡大している。

荒川レース工業株式会社 www.arakawa-lace.com

編みレースの国内トップシェアを占める福井産地において、一貫生産により高品質でバリエーション豊富なレース生地を製造する専門メーカー。過去に生み出した膨大な編みパターンのアーカイブから次の製品開発につなげられることも強みとし、デザイナーやアーティストとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。

「make.fUKUI WONDERS 号外」発行日：2019年3月13日
発行元：福井市 監修：株式会社リ・パブリック、株式会社福井新聞社
編集ディレクション＆編集：MUESUM(多田智美) アートディレクション＆デザイン：UMA/design farm(原田祐馬、西野亮介、岸木麻理子) 撮影：片岡杏子



XSTUDIO とは……

過去2年間事業創造プログラムとして実施したXSCHOOL*を、「ともに学ぶ XSCHOOL、ともにつくる XSTUDIO」として再編して生まれた120日間のプログラム。福井の文化や風土を紐解き、社会の動きを洞察しながら、未来に問いを投げかけるプロジェクトを創出しています。XSTUDIO初年度となる今年度は、福井の基幹産業「繊維」を探索フィールドに設定し、日本各地からメンバーと、異なる専門性をもつスタジオリーダー、福井を拠点に活躍するローカルリーダー、そして繊維にまつわるパートナー企業からなる3つのスタジオ活動を展開。対話と実験を繰り返しながら、個性豊かな事業・プロジェクトを生み出しました。

*XSCHOOL 2016-17年度の取り組みは、地域が人材育成のゆりかごとなり得ている点などが評価され、2018年度ブドウデザイン賞を受賞しました。

実施期間：2018年9月～2019年2月 参加者数(企業、リーダー含む)：33人
パートナー企業：明林繊維株式会社、ジャパンポリマーク株式会社、荒川レース工業株式会社 スタジオリーダー：杉本雅明、萩原俊夫、吉行良平 ローカルリーダー：新山直広、森一貴、坂田守史

2018年度 XSTUDIO 3つのスタジオの活動

PARTNER企業 (R) スタジオリーダー (L) ローカルリーダー

STUDIO A 繊維の深淵なる世界へのいざない
TEXTILE INVITATION

再生セルロース繊維を強みとする産元商社・明林繊維株式会社をパートナーに、生地をめぐる新たなコミュニケーションを提案。生地サンプルの情報と形状のリデザイン、出会いの場の創出、ワークショップやメディアの開発などを構想し、新しいつくり手がアクセスしやすい環境の整備を試みる。
https://toteki.com http://textile-invitation.com

明林繊維株式会社(村上貴宣/木村真也/高橋葉都美)
杉本雅明(起業家/エレフアンテック株式会社副社長)[東京都在住]
新山直広(デザイナー/TSUGI代表)[福井県在住]
李受慧(紡織会社研究員)[神奈川県在住] 角舞子(プランナー、ライター)[福井県在住] 互井良典(デザイナー)[大阪府在住] 新谷聡子(大学生)[東京都在住] 田嶋宏行(遊具デザイナー)[福井県在住] 目黒幸太(デザイナー)[東京都在住]

STUDIO B ばらばらなものから新しい関係をつくる
「ハイパーリンク」を見つけだす

熱転写ラベル分野の国内トップメーカー・ジャパンポリマーク株式会社をパートナーに、さまざまな分野や関心を“くっつける”、「ハイパーリンク」を実践。景観の地産地消を提案する屋外照明、越前和紙の技術研究、持続可能なアーティスト・イン・レジデンス企画など、5つのプロジェクトが展開中。
https://www.xstudio-b.com

ジャパンポリマーク株式会社(山本和紀/齊藤博之/吉川直喜)
萩原俊夫(Webデザイナー/プログラマー)[東京都在住]
森一貴(コンサルタン、探究型学習塾ハルキョウ代表)[福井県在住]
加藤真(ランジェリーデザイナー)[福井県在住] 角田 元(元ギャラリー運営)[兵庫県在住] 木下佳祐(Webメーカー)[東京都在住] 佐藤 輝(繊維製造企業企画営業) 濱七海(大学生) 濱七海(大学生) AFFILIATE MEMBER 鈴木康洋(プロダクトデザイナー)[東京都在住] 森嶋 彰(プロダクトデザイナー)[福井県在住] GRAPHIC DESIGN 吉鶴かのこ(グラフィックデザイナー)[大阪府在住]

STUDIO C レースの「よさ」について考える
ARAKAWA LACE LAB.

インテリア分野で編みレースを展開する荒川レース工業株式会社をパートナーに、レースの「よさ」と可能性を探る。手を動かすことによる「よさ」の考察と言語化の反復から、レースの「地組織」に着目した暮らしの道具を開発。また、継続して、研究開発するためのARAKAWA LACE LAB.も発足。
https://xstudio-c.tumblr.com

荒川レース工業株式会社(荒川拓磨/荒川道子)
吉行良平(プロダクトデザイナー/吉行良平と仕事)[大阪府在住]
坂田守史(ディレクター、プランナー) 株式会社デザインスタジオ・ピニン[福井県在住] 高野麻美(建築士)[福井県在住] 矢野 智(アパレル生産管理)[大阪府在住] 長岡 聡(デザイナー)[東京都在住] 前田裕斗(メーカー開発営業)[東京都在住] 宮下友孝(化学メーカー開発営業)[神奈川県在住]

未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト make.fUKUI 2018年度に実施したXSTUDIO以外のプロジェクト

XSXSCHOOL

3期目となる本年度は、より広い対象に向けて、2日間にわたり「広義のデザイン」をもとに考える教室を開講。全国各地から集った受講生は総勢約100名。デザイナー・編集者・地元企業など、さまざまな背景を持つスピーカーと次世代のデザイナーたちがディスカッションを交わしながら、アイデアを生み出す可能性を探る有意義な2日間となった。

実施期間：2018年9月1日-2日 受講者数：約100名 スピーカー：原田祐馬(デザイナー)、多田智美(編集者)、内田友紀(都市デザイナー)、金田大也(ミュージアムエディタ)、高橋幸治(プロダクトデザイナー)、新山直広(デザイナー/フレクター)、杉本雅明、萩原俊夫、吉行良平(以上 XSTUDIO リーダー)、小堀 達(建築家)

日本海トリアル

自然豊かな沿岸部の越前地区を拠点に、福井で働く・暮らすを体験できる都市圏在住者対象の「お試し居住・お試しオフィス」プログラム。今年度は、取材から始めるまで、すべての素材を越前海岸エリアで集めた、オリジナル海鮮井をつくる宿泊体験プランを実施し、参加者と地域の方々との交流が育まれた。
実施期間：2018年9-11月 参加者数：4組9名